

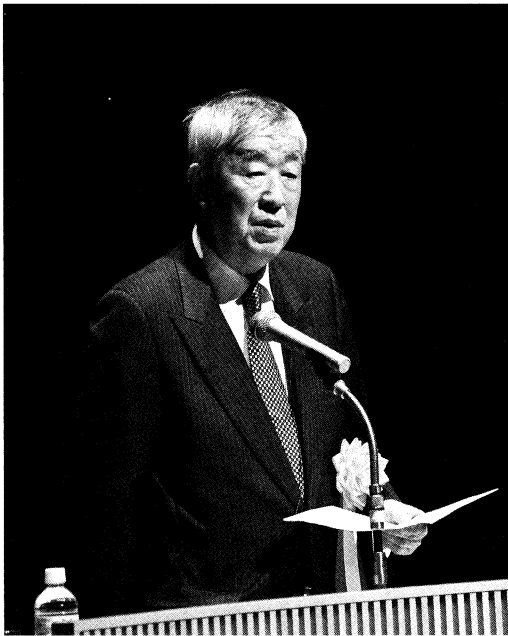
創立百二十周年 記念式典・祝賀会、盛大に挙

実行委員会 行事部

古沢 俊明 (88回) 卒

平成 24 年 10 月 20 日 (土)、創立百二十周年記念式典・講演会、演奏会が新潟市民芸術文化会館(りゅうとびあ)で、祝賀会がホテルオークラ新潟で、それぞれ盛大に挙行されました。

秋晴れの下、りゅうとびあで行われた記念式典には、全生徒と青山同窓会員を中心とした 1500 人余がコンサートホールの座席を埋めつくしました。草間俊之学校長の式辞、長谷川義明実行委員会会長(青山同窓会会長)の挨拶のあと、北村泰



記念講演会 講師 神林 恒道さん

クラ新潟において、250 名余の参会者を得て祝賀会が開催されました。ソプラノ・今井あい氏(105 回)の演奏のあと、長谷川義明会長、草間俊之学校長の挨拶、篠田昭新潟市長の祝辞とつづき、風間土郎青山同窓会副会長の乾杯により祝賀が始まりました。歓談後は新旧校歌応援歌斉唱とつづき、山内春夫青山同窓会副会長の万歳三唱で閉会となりました。

すべての事業・行事が無事に、また成功裡に行われましたことに、改めて御礼を申しあげ、式典・祝賀会のご報告といたします。

なお、神林恒道先生ご講演の要旨を次号(7 月発行)に掲載する予定です。

式典の写真は 23 ページに掲載しています。

新旧二つの校歌と八つの応援歌による

「クラージュ風幻想曲」《百里流れて》

作曲家・上越教育大学大学院教授

後藤 丹 (79回) 卒

やたらと長いタイトル。これは、昨年の 10 月 20 日に新潟市りゅうとびあで行われた百二十周年記念のパイプオルガン・コンサートで石丸由佳さんに弾いていただいた曲の題名です。石丸さんは、シャルトル国際オルガンコンクールでグランプリを獲得した同窓の若いオルガニスト。私は彼女が中学生の頃からよく知っていました。

ドイツ在住の石丸さんから、そのコンサートで校歌を弾きたいから編曲してくれないかと依頼され、仕事に着手したのが昨年の夏。当初は新旧二つの校歌「玲瓏の天」と「百里流れて」



記念演奏会 パイプオルガン演奏者 石丸由佳さん

に逸脱した大作となりました。まず足鍵盤による保続音上に「天は晴れたり」と「嗚呼、青陵に精気あり」のモチーフが絡み合いながら始まり、やがて、さまざまな応援歌が呼応しながら登場。一通り盛り上がったところで旧制の校歌が朗々と二度繰り返され、その間には「ますらお」が響き渡ります。短いカデンツァを挟み、いよいよ「百里流れて」のメロディが力強く奏されますが、最大のクライマックスはその後で、新旧二つの校歌が対位的に組み合わせられ、同時に鳴り響く部分。ここで旧制中学と新制高校の融和を象徴しようと思いました。

石丸さんは私の意図を完璧に理解し、見事な演奏をされました。会場の皆様も、感動されたかどうかはともかく、面白く聴いてくださったようで、苦労して作った甲斐がありました。